

■もったいない庭：加賀屋緑地「加賀屋新田会所跡」

大阪市住之江区南加賀屋4-8 06-6683-8151

江戸期の大阪の西、淀川・大和川河口部に広がる干潟を開拓し、新田とした加賀屋甚兵衛が開いた新田会所屋敷跡。

新田開発や両替商で得た財を、惜しまず注いだ屋敷と庭園。「このままではもったいない」と持ち主の相談を受け、大阪市内にただ一つ残る新田会所跡として10年以上の歳月を掛けた調査・補修をへて、公園として整備されています。



独特の形をした「冠木門」。くぐると、蘇鉄や松、檜の生け垣に囲まれ、まっすぐに伸びた通路で式台のある玄関へ至ります。堂々たる間口は、代官が籠を横付けて上げられるよう配慮されたもの。



創建当時の姿を伝える書院。雪舟四代目の襖絵の開け放つと数奇屋風建物との間から正面にかけて、周辺からは想像出来ない程起伏に富んだ、築山林泉回遊式の庭園が広がります。



築山の上にはかつて高床の茶室「明霞亭」(戦災の火の粉を受け消失)があり、そこから眺めると鳳凰の飛び立つさまに見えることから、数奇屋に「鳳鳴亭」の名がつけられました。



ただの公園には思えない風格と見どころの多さがあります。桜は無いので派手な花見は出来ませんが、春先には枝垂梅、初夏には菖蒲が、秋になると山桜、銀杏の彩りが見られるとのこと。「句会・演奏会・落語会・茶会。色々なイベントを通して仰山の人に見てもらいたいんですが、文化財やから火使ったらあかんし、建物の広さや強度とのバランスが難しいですわ。」と、管理の方の声。

◇後記◇地域の歴史・文化を伝える屋敷と庭園が、地元の方々の協力のもとで大切に守られながら、気軽に見学できる場所です。つつい欲張った使い方を考えたくなる。素晴らしくもったいない場所でした。